

岐阜県立森林文化アカデミーの 国有林実習で実験林等を案内

【森林技術・支援センター、岐阜署】
八月二十五日、岐阜署管内の小川長洞及び乗政国有林において、岐阜県立森林文化アカデミーのクリエーター科の学生十名が、国有林の施業について現地実習を行い、森林技術・支援センター及び岐阜署の担当者が、実験林や試験地の概要について説明を行いました。

小川長洞国有林の実習では、間伐率の異なるプロットにおいて、植栽木の生育状況等の観察を目的に設定された「ヒノキ間伐実験林」を見学し、間伐の効果やプロット毎の優劣を学習した後に、今後の伐採方法等の施業について、学生同士の意見交換が行われました。

学生からは、生産・利用など、各々の専攻分野に応じた様々な意見が出される中で、最後に、センター職員から、国有林の今後の施業方針について説明を行いました。

また、乗政国有林の実習では、「ヒノキ長伐期施業林」の見学を行いました。現地は、平成二十八年度に製品生産事業で搬出した箇所

で、林齢八十七年生と百七年生のヒノキ人工林の概要について、岐阜署の担当者が説明を行いました。

この林分では、樹幹長率や樹幹のうっ閉状況を確認し、今後の施業について意見交換を行い、学生からは、皆伐して再造林するといった意見や、需要に応じて択伐する等の意見が出されていました。

この他にも、コンテナ苗試験地の見学を行うなど、学生毎の専攻分野に応じた見聞を広め、充実した現地実習となったようで、両署等では、今後も学校等からの要請に応じ、国有林の案内やPRに努めて参りたいと考えています。



ヒノキ間伐実験林の見学状況



ヒノキ長伐期施業林の見学状況